

第2学年1組 音楽科学習指導案

平成23年6月2日 第4校時

指導者 井本 綾



1 題材 日本の歌に親しもう。

2 目標

- 楽曲の特徴について自ら考え、楽曲に興味を持ち、主体的に活動しようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 楽曲特有の曲想を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫することができる。
(音楽的な感覚や表現の工夫)
- 美しく響きのある声で、楽曲にふさわしい表現を工夫することができる。
(表現の技能)
- 日本の歌に親しみながら、その楽曲の特徴や美しさを感じ取ることができる。
(鑑賞の能力)

3 教材 「浜辺の歌」(作詞：林 古溪，作曲：成田 為造)

4 指導観

- 本単元は、学習指導要領の第2学年及び3学年の表現の内容(1)ーア「歌詞の内容や曲想を感じ取り表現を工夫して歌うこと。」をねらいとして設定したものである。
音楽を表現するにあたって、それぞれの曲にふさわしい自己のイメージや感情を広げ、曲への思いや意図を創意工夫して歌うことは大切である。楽譜に記されている用語や記号について、なぜその部分に記号がつけられたのかを考え、どのようにすれば曲にふさわしい表現になるかを工夫したりすることで表現のしかたも変化してくる。このように、楽曲と向き合い、楽曲に対して演奏解釈を行い工夫していくことで、日本の音楽に対して主体的に親しむことができるようになり、また一人一人異なった表現を見いだすことができるようになると考え、本題材を設定した。
- 本学級は男子15名、女子16名の計31名の学級である。校歌斉唱などの場面で歌う活動は行っているものの、楽曲を形づくっている要素や構造に目を向け、どのような効果があるのかを考えながら歌唱を工夫しようとする生徒は少ない。しかしこれから合唱コンクールなどで表現する活動が増えてくるため、楽曲への理解を深め、自主的に表現を工夫しようとすることは大変重要であると考え。
- そこで指導にあたっては、歌の一番盛り上がる部分を考えながら反復練習を行い曲に親しませ、手拍子遊びをしながら音楽に盛り上がりをつけるためにはどのような工夫をすればよいのかを身体で感じさせていきたい。また楽曲にふくまれる諸要素がどのような効果を及ぼし、その要素に対してどのような工夫をしていけばよいのかを考えることができるようにしていきたい。

5 指導計画 日本の歌に親しもう (全3時間)

- (1) 曲の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- (2) 曲想表現の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間(本時)
- (3) 曲の仕上げ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

6 本時の目標

- 盛り上がりの部分を自分たちで工夫して、のびのびと歌うことができる。

7 学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点	形態	資料準備
1 前時の復習をする。	○ 前時で取り上げた曲の盛り上がりについて思い出せるよう、前回の復習をする場を設定する。	一斉	楽譜
2 手拍子遊びをする。 ・だんだん大きくする。 ・だんだん小さくする。 ・だんだん大きくしてから小さくする。	○ 生徒が音の盛り上がりを感覚的につかめるようにするために、手拍子遊びを行う場を設定する。	一斉	
3 本時の学習課題を確認する。 ・盛り上がり部分の歌い方を自分たちで工夫してみよう。	○ 本時の目標が確認できるよう、本時の目標を提示しておく。	一斉	用紙
4 演奏解釈をする。 ・一度、通して歌唱する。 ・盛り上がりの部分を工夫していく。 ① どの音が一番の盛り上がりになるのか。 ② その音を一番の盛り上がりにするためにはどうしたらよいか。	○ これからの学習のため、まず歌唱の際は細かい指導は行わず、姿勢や楽譜の持ち方など、歌唱における基本事項のみ指導を行う。 ○ この発問に対する生徒の意見を導くために、2つの歌唱例を示し、考える場を設定する。	個	
5 表現の工夫をする。 ・曲の盛り上がり等に気をつけて練習する。	○ 先程考えたことを歌唱に反映できるよう、教師が歌唱指導を行う。	一斉	
6 本時のまとめをする。 ・演奏解釈について ・感想を書く。	○ 本時で学んだことをこれからの活動に反映できるよう、教師の話を聞き、まとめを行う。	一斉 個	ワークシート

8 板書計画

○盛り上がり部分の歌い方を
自分たちで工夫してみよう。

演奏解釈

浜辺の歌 楽譜